

《担当者名》 志水 幸 koh@hoku-iryo-u.ac.jp 花淵 馨也 常田 美和 長谷川 純子(リハ)

【概要】

この講義では、国際社会福祉に関する up to date な課題について解説する。

【学修目標】

この講義では、グローバルな視点から国際社会福祉に関する課題を捉える枠組みの習得を目標とする。具体的には、個々に生じる課題について、世界システムとの関連で理解・説明できる能力を習得することである。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義計画の概要や自己学習の進め方を理解する。	志水、花淵、常田、長谷川
2	国際社会福祉の理論的枠組み	国際社会福祉の意義と課題を理解する。	志水
3	国際社会福祉の理論的枠組み	国際社会福祉と人間開発計画を理解する。	志水
4	国際社会福祉の前提条件	グローバル化と国際援助を理解する。	花淵
5	国際社会福祉の前提条件	アフリカ問題と援助の失敗を理解する。	花淵
6	国際社会福祉の前提条件	国際援助の新たな方法を理解する。	花淵
7	国際社会福祉の課題	持続可能な開発目標(SDGs) を理解する。	常田
8	国際社会福祉の課題	開発途上国のリプロダクティブ・ヘルス/ライツを理解する。	常田
9	国際社会福祉の主体	札幌における外国人医療サポートの現状と課題を理解する。	志水 芦田科子(特別講師)
10	国際社会福祉の課題	持続可能な開発目標(SDGs) を理解する。	常田 奥村昌子(特別講師)
11	国際社会福祉の課題 (ワークショップ)	世界の人々の相互理解・相互受容について体験的に理解する	長谷川
12	国際社会福祉の実践	日本の政府開発援助の協力形態およびJICA海外効力隊の活動について理解する。	長谷川
13	開発途上国における障がい者の暮らし	開発途上国における障がい者の暮らしについて理解する。	長谷川
14	国際社会福祉の実際	北欧型福祉国家をみる スウェーデンにおける社会福祉を理解する。	志水 渡辺まどか(特別講師)
15	講義の総括	これまでの講義を振り返り、今後の課題を総括できる。	志水、花淵、常田、長谷川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

講義レポート40%、 試験60%により総合的に評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

ジェームス・ミッジリィ（京極高宣ほか監訳）：国際社会福祉論．中央法規，1999年．  
岡伸一ほか編：新・世界の社会福祉．旬報社，2020年．

**【備考】**

この科目は、教職課程（公民）の教科に関する科目の「法律学（国際法を含む）、政治学（国際政治を含む）」に該当する。

**【学修の準備】**

< 授業時間外学修 >

予習（60～90分）：各回のキーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。

復習（30分～60分）：学習内容を振り返り、記憶の定着をはかる。

その他、新聞やニュースで取り上げられる国際的な保健・医療・福祉問題について興味を持ち、その問題について自分なりに深く考えてみる。問題意識を明確にした上で、授業に積極的に参加すること。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP5